

# 全酪連会報 ②

2024 FEB No.701

若手後継者の本音／遠藤洸介さん

品質保証室だより／2023年(1～12月)食品事故情報

令和5年度 全酪連会員職員研修会 後編

全国酪農青年女性会議 酪農業に対する理解醸成活動 大阪で開催

日本酪農見て歩紀／向牧場(徳島県藍住町)

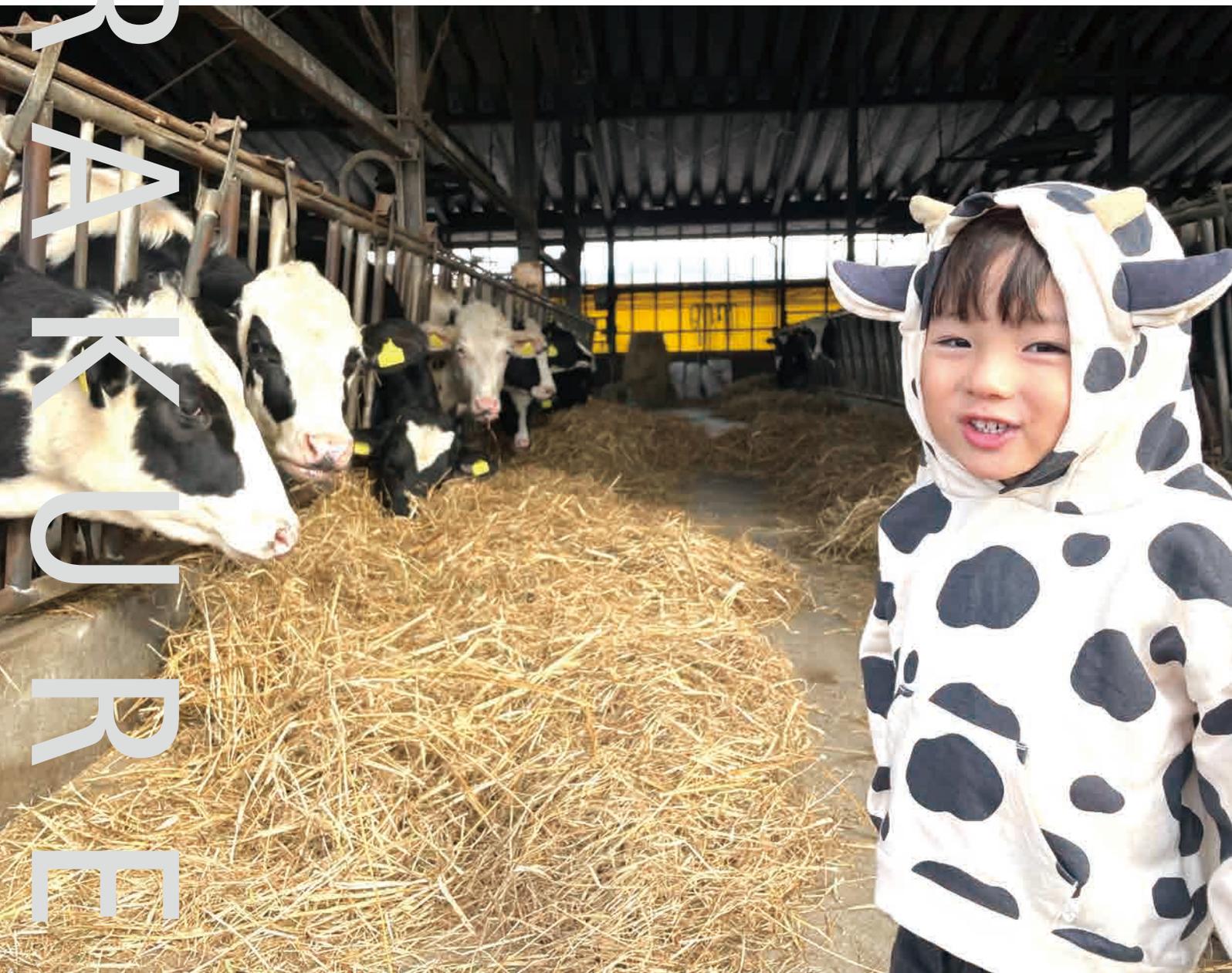
酪農トピックス／全国農協乳業協会「令和5年度経営者研修会・意見交換会」の開催について(酪農部)

酪政連活動報告

令和6年各地域酪農青年女性会議酪農発表大会 開催のご案内

令和6年能登半島地震の災害に係る義援金の受付について

人事異動



LINE公式  
アカウント  
ができました!  
登録をお願いします!



酪農青年女性会議

@642bpcwk



全国酪農業協同組合連合会

この度ご紹介するのは、十勝地方北部土幌町にあります遠藤牧場の後継者 遠藤 洸介さんです。土幌町は総面積の約60%が農用地、肉牛飼育頭数は日本一という農畜産業の町であり、所属する土幌町農業協同組合は生乳出荷戸数61戸、生乳生産量97,804t（令和4年度）となっています。

遠藤牧場は平成6年に酪農家から育成農家に転向し、全酪連預託牧場として受け入れを開始されました。現在は常時300頭前後の育成牛を洸介さんとお母様の裕子さんのお二人で管理しています。牛の仕上がりや繁殖成績が都府県の委託酪農家より高く評価されており、道内外からの視察が絶えない牧場となっております。

### 就農は自然に、学びを活かした牛舎管理

小学生の時から牛舎を手伝っていましたし牛



▲ 遠藤洸介さん(右)と本会福元職員

今回は、北海道土幌町 遠藤牧場の後継者 遠藤 洸介さんにお話を伺いました。

や牛舎の仕事が好きだったので、中学生の時には将来牧場を継ぐことを意識していたと思います。進学校を経て帯広畜産大学に進み、大学では家畜管理の研究室に所属し、家畜行動学を勉強しました。牛の行動を観察し、飼養管理を改善する学問で、カウコンフォートやアニマルウェルフェアにつながるものです。

私が大学2年生の時に母が大規模な牛舎の新築・改築を行ったのですが、設計にあたり私の恩師でもある行動学の教授に様々な助言をいただきました。これからはフリーバインと放牧の時代が来る」と言われ、北海道では珍しいバイオベットのフリーバイン牛舎を建て、2haではありますが放牧地の整備をしました。就農後、アニマルウェルフェア畜産協会の代表理事に勤められてアニマルウェルフェアの認証を取得しました。現在も年に1回の審査を受けていて、指摘をもとに牛舎や飼養管理など見直してきました。アニマルウェルフェアの認証を取る事は直接的に収入の増加につながるものではありませんが、科学的な根拠の元に第三者目線で牧場の管理を評価してもらう貴重な機会だと思います。日本ではアニマルウェルフェアの理解が未だ十分とは言えませんが、アニマルウェルフェアの理念に賛同するものとして国内におけるアニマルウェルフェアの普及に貢献していきたいと思っています。

### 生物学的に正しい酪農を追求したい

私は子供の頃からトラクターのような機械よりも生き物に興味がありました。学生時代に山地酪農の本を読んで放牧酪農に興味を持ち、また堆肥作りを通して微生物について勉強するようになりました。就農後に土壌の勉強会に参加させてもらい、コンサルタントの指導の下でミネラルバランスに注目した土作りをするようになりました。土壌の改善を始めて今年で9年目になりましたが現在では投入する肥料は減り、土壌の水捌けが良くなるなどの効果が感じられるようになりました。今では土壌の化学性が安定してきたので、今後は新しい牧草を導入したり、緑肥を活用して生物学的な改善に挑戦していきたいです。

今は海外から飼料を購入することが難しくなっていることもあり、これからは所有する農地から良質な粗飼料を十分に確保することが経営を安定化するうえで重要だと思います。

これからも勉強しながら、自然の生態系を尊重する農業を突き詰めていきたいです。

### 楽農がモットー

牛の管理や観察には時間をかけていますが、母と2人で経営していますので、できるところで外部委託を利用し、効率化・省力化を図っています。草地での作業はコントラクターを活用して機械に

# 若手後継者の

# 本音

Vol.67



▲ 雨に濡れないパドック、明るく開放的



▲ 粗飼料がたっぷりの飼槽、給餌作業は機械で効率的に

## 【経営概況】

所 属 士幌町農業協同組合(國井浩樹代表理事組合長)

家族構成 遠藤洸介さん、お母様の裕子さん、お祖父様の長三さん、お祖母様の澄子さん

飼養頭数 育成牛 300頭

草 地 採草地31ha(外部委託)、放牧地2ha、飼料用とうもろこし9ha

## 牛の生態を尊重し、楽農を目指す



▲ 牛舎内で日向と日陰ができる工夫された屋根



▲ 牛の快適性をあげるブラシ、小さな出費で大きな効果があったそう

### 基本に忠実に

かかる投資を削減しています。逆に、日常作業においては機械化を進め、時間にゆとりを持てるように心がけています。育成農家にはヘルパー制度がありませんので、1人でも対応できる作業手順・作業量としておかないと視察や勉強会にも参加できません。酪農には休みが無く、時期によっては畑の作業もあるため日常の作業は意識して空き時間を作るようにしています。また作業の内容についても自然の生態系や牛の生態を尊重し、人が牧場の全てをコントロールするのではなく、あくまで環境の整備にとどめることによつて体力的な負担を減らすようにしています。

預託元の農家さんから、管理や繁殖について良い評価をいただいております。育成農家にとつて繁殖成績は経営に直結するものですが、うちではそのために特別に気を付けていることはあ

りません。預託牛はステージに分けて管理し、良質な粗飼料を与えてルーメンの発達を促す、それにより搾るようになってから食い込みの良い牛を作りたいと考えています。ごく基本的なことに気を付けて、「牛の体を作る」と言うことにフォーカスしています。牛づくりに特効薬はありません。基礎基本に忠実に、安心して牛を預けてもらえる育成農家であり続けたいと思います。

洸介さんは博学で、最近本で読んだこと、考えていることをたくさんお話いただきました。勉強して得た知識を活かし、また実践して、仕事を楽しんでる姿が印象的でした。「いい加減にやりますよ」と笑っておられました。効率化する作業と時間をかける作業をしっかりと区別して、愛情深く育成牛を育ててくださっていることが伺え、遠藤牧場でのびのびと力強く育った牛たちが、これからも都府県の生乳生産を支えてくれることと確信致しました。この度は大変お忙しいところ、快く取材にご協力いただきました。ありがとうございました。

### 全国の若手後継者の皆さんへの一言!

農業は国民の食糧を作り、国土を守る尊い職業だと思います。私たちの資産である牛を大切に、力を抜いて一緒にがんばりましょう。



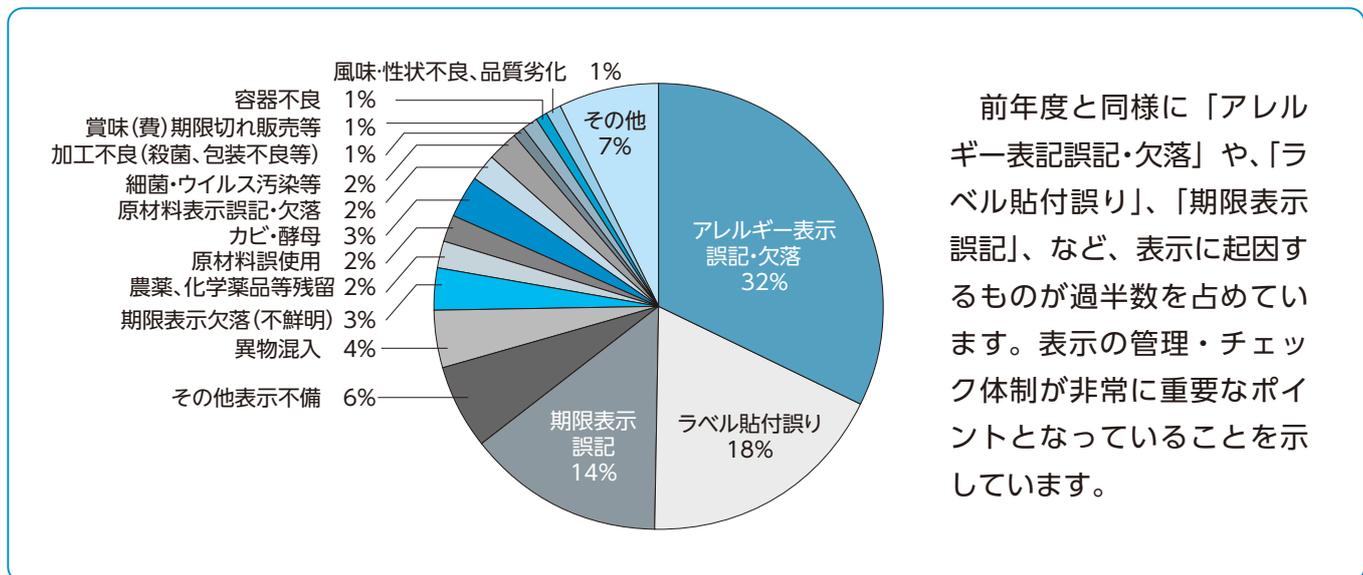
消費者庁の専用サイトや、業者による開示サイトより、毎月の食品事故情報を調査しておりますが、今回は2023年（1月～12月）のこれまでの食品リコールの情報を取りまとめしてみます。

# 2023年（1～12月） 食品事故情報

## 1 全リコール情報 【注意】 リコール情報が開示されていないものを含まない。

### ■2023年 食品事故情報

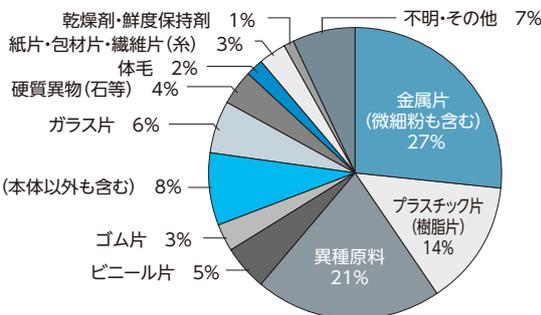
事故原因	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	share	平均件数/月
アレルギー表示誤記・欠落	74	114	128	81	110	121	85	75	73	87	132	70	1,150	32%	95.8
ラベル貼付誤り	35	55	58	57	57	49	62	52	50	61	72	43	651	18%	54.3
期限表示誤記	43	41	32	35	46	43	36	48	39	51	44	50	508	14%	42.3
その他表示不備	17	37	27	12	11	13	15	9	16	18	19	19	213	6%	17.8
異物混入	7	13	9	10	13	12	4	10	8	15	19	11	131	4%	10.9
期限表示欠落（不鮮明）	8	5	4	6	8	9	10	9	8	7	5	11	90	3%	7.5
農薬、化学薬品等残留	2	4	6	4	12	9	7	6	5	9	8	16	88	2%	7.3
原材料誤使用	6	4	4	7	7	9	6	11	-	8	14	2	78	2%	7.1
カビ・酵母	3	4	1	7	3	7	11	12	13	17	27	18	123	3%	10.3
原材料表示誤記・欠落	7	5	10	7	7	8	4	5	2	17	11	6	89	2%	7.4
細菌・ウイルス汚染等	1	4	2	2	-	12	10	10	17	7	10	1	76	2%	6.3
加工不良（殺菌、包装不良等）	2	5	4	2	5	2	6	2	4	4	2	4	42	1%	3.5
賞味（費）期限切れ販売等	3	3	5	4	6	2	2	4	3	6	4	2	44	1%	3.7
容器不良	3	3	1	4	1	4	2	9	3	8	4	5	47	1%	3.9
風味・性状不良、品質劣化	3	2	-	-	-	-	1	3	4	6	2	2	23	1%	1.9
その他	17	9	16	12	23	18	27	20	29	23	26	23	243	7%	20.3
計	231	308	307	250	309	318	288	285	274	344	399	283	3,596	100%	299.7



## 2 異物混入によるリコール

### ■2023年 食品事故 異物混入詳細

混入異物	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	share	平均件数/月
金属片 (微細粉も含む)	1	4	4	4	4	5	-	3	2	2	4	2	35	27%	3.2
プラスチック片 (樹脂片)	1	3	1	2	3	2	1	-	-	1	2	2	18	14%	1.8
異種原料	-	-	-	-	4	-	-	2	3	9	8	2	28	21%	4.7
ビニール片	2	1	-	2	-	-	1	-	-	-	-	-	6	5%	1.5
ゴム片	1	-	-	-	1	1	-	-	-	1	-	-	4	3%	1.0
虫・動物 (本体以外も含む)	-	-	-	-	-	1	1	3	-	-	2	3	10	8%	2.0
ガラス片	-	2	2	-	-	1	-	-	1	-	1	1	8	6%	1.3
硬質異物 (石等)	1	-	-	-	-	-	1	1	1	-	-	1	5	4%	1.0
体毛	-	1	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	3	2%	1.0
紙片・包材片・繊維片 (糸)	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	2	-	4	3%	1.3
乾燥剤・鮮度保持剤	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1%	1.0
木片	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
コゲ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
不明・その他	1	-	2	2	1	1	-	-	1	1	-	-	9	7%	1.3
計	7	13	9	10	13	12	4	10	8	15	19	11	131	100%	10.9

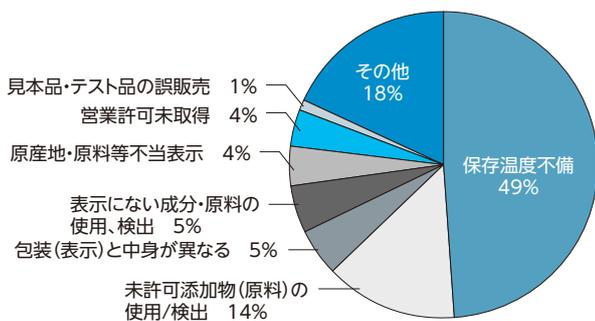


前年と同様に「金属片 (微細粉も含む)」、「プラスチック片 (樹脂片)」の2点に加えて、本年は「異種原料」が増加しています。これは10月以降に発生した“しらすにフグの稚魚が混入している”として報告されたものが複数あったことに起因しています。

## 3 その他の理由によるリコール

### ■2023年 「その他」の概要

事故原因	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	share	平均件数/月
保存温度不備	6	5	5	6	13	12	13	15	13	8	10	14	120	49%	10.0
未許可添加物 (原料) の使用 / 検出	1	2	3	3	2	1	3	1	11	5	2	1	35	14%	2.9
包装 (表示) と中身が異なる	3	-	2	-	2	1	1	-	-	1	1	1	12	5%	1.5
表示にない成分・原料の使用、検出	2	-	2	1	1	1	1	-	-	-	1	2	11	5%	1.4
原産地・原料等不当表示	-	1	-	-	1	-	3	-	-	2	2	-	9	4%	1.8
営業許可未取得	3	-	-	-	-	1	1	2	-	2	-	-	9	4%	1.8
見本品・テスト品の誤販売	-	-	-	-	1	-	-	1	-	1	-	-	3	1%	1.0
販売価格誤り	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
優良誤認等不当表示	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	0%	1.0
その他	2	1	4	2	3	2	5	1	5	4	9	5	43	18%	3.6
計	17	9	16	12	23	18	27	20	29	23	26	23	243	100%	20.3



これについても前年と同様に「保存温度不備」については、製品倉庫・流通段階・営業倉庫の温度チェックが重要と考えます。

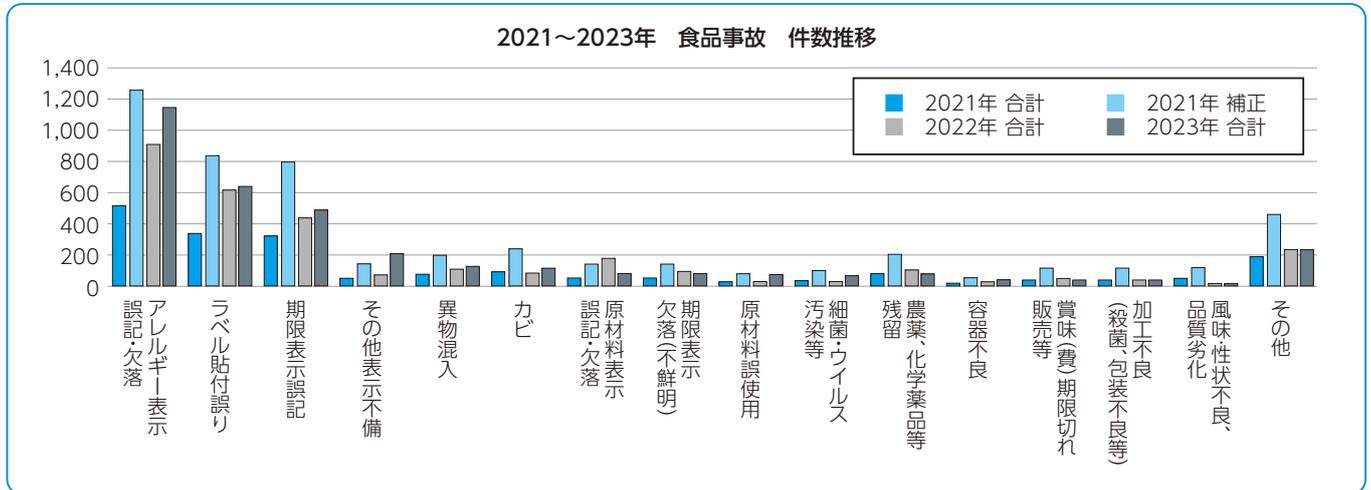
食品事故情報を詳細に検証すると、昨年までと同様に

- ①表示・ラベルの管理 (記載内容の確認)
- ②原料 (原料への異物・原料の内容物)・施設の管理 (施設機械からの異物混入・保存施設の温度管理)
- ③製造工程の管理 (異物混入対策) などの、機械・施設を運用する人的確認プロセスが、最終的にはトラブルを削減する重要な工程であることが見えてきます。

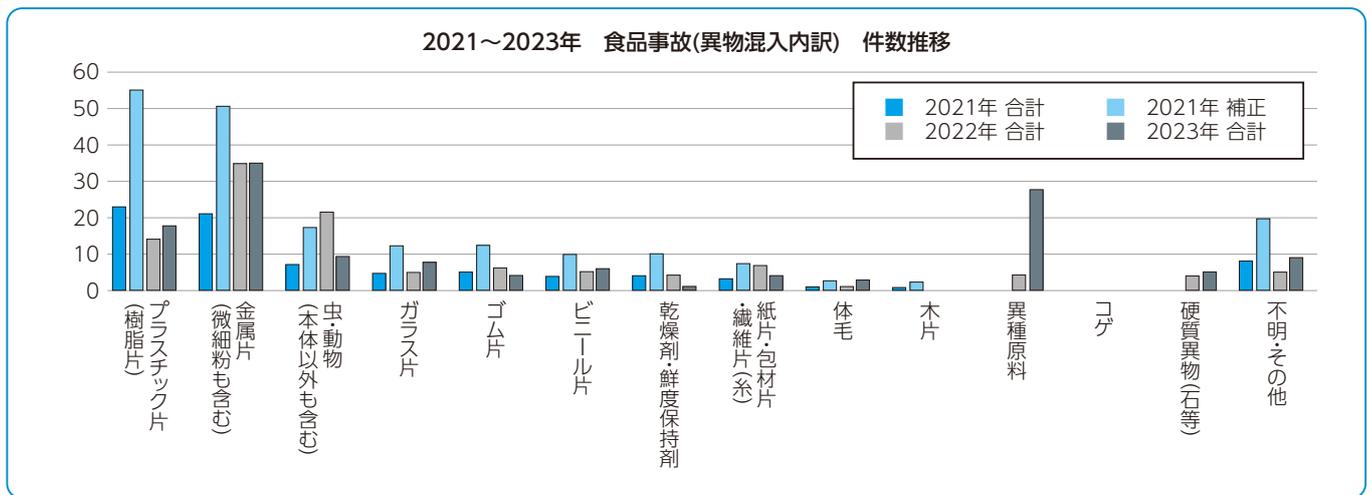
最後に、2021年6月より施行された「改正 食品衛生法」以降の、リコール情報にも基づいた各年次の発生件数の推移を検証してみます。

※ただし、2021年のデータは、5月末までは過去の法令基準となっていますので、データの抽出は、6月以降の12月までの7か月間のデータとなりますので、7/12として補正しております。

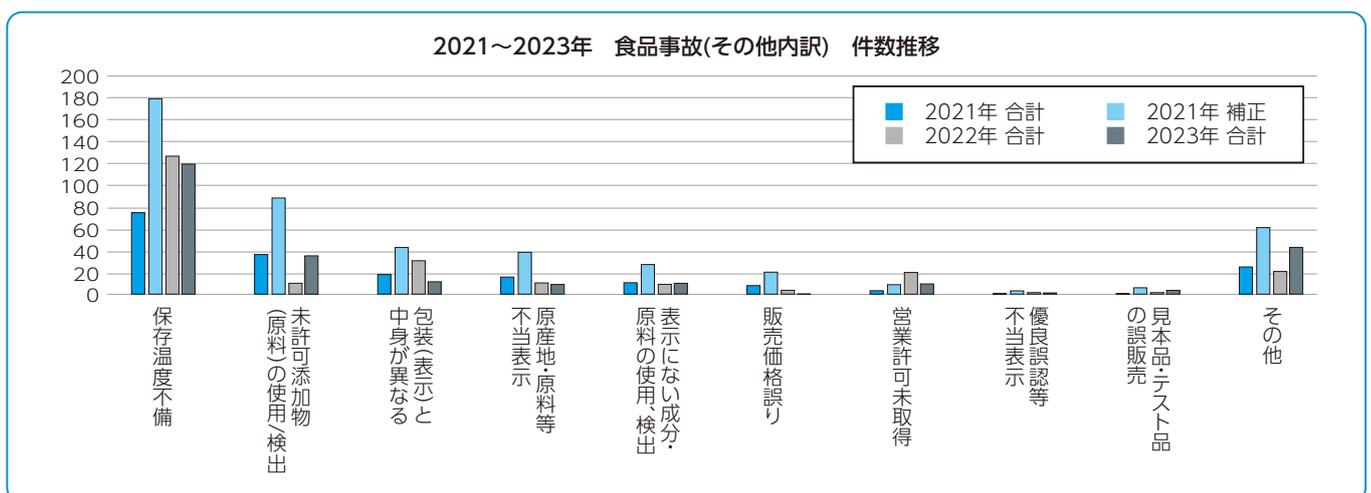
### ①食品事故回収件数



### ②食品事故回収(異物混入)件数



### ③食品事故回収(その他)件数



# 全酪連会員職員 研修会 後編



酪農における法人化・協業化  
農業経営コンサルタント・税理士 森剛一氏  
(アグリビジネス・ソリューションズ(株)代表)

昨年11月20日に開催いたしました全酪連会員職員研修会にて講演いただいたアグリビジネス・ソリューションズ(株)代表の森剛一税理士による『酪農における法人化・協業化』の内容をご報告いたします。

## 酪農における法人化・協業化

今、日本の農業政策は、担い手政策にシフトしています。中でも「法人化」を具体的な数値目標を掲げて推進しています。補助事業の採択では、法人もしくは法人化を予定している経営体のポイントは高くなります。

また、農地の集積に関して、農地中間管理機構制度（農地バンク）ができて以来、農地の利用権を集積する形で農地の流動化が行われて

います。収穫作業を主に担う任意組織のコントラクターよりも、農地を借りて播種から収穫まで一貫して行う「飼料作法人」が今後は求められます。

### 法人のメリット

法人のメリットとして、まず、経営の継続性が確保できる点が挙げられます。法人名で締結した契約は、代表者が変わっても有効に継承

され、第三者継承も株式の譲渡で可能であり、雇用契約等もそのまま引き継がれ人材確保でも有利です。個人経営は、経営継承の際は新たな経営者と契約を結び直さなければなりませんし、第三者継承も個々の資産の売買となり税金の負担が重くなることもあります。

2番目に、従事者の福利厚生の実が挙げられます。社会保険、労働保険が適用され、労災保険などの保護が受けられます。就農希望者は、就職先として個人事業の農場よりも社会保険等が完備されている法人への就職を選択するでしょうし、家族従事者にとってもメリットがあります。

3番目に、経営管理能力、対外

信用力の向上という点です。法人の場合は、経営者の家計と法人経営は資金的に分離されます。例えば、法人が経営者個人からお金を借りる場合、借入金として明確に債権債務が認識されます。金融機関や取引先からの信用も増加し、融資限度額が拡大します。また、日本政策金融公庫とJAグループの投資により設立されたアグリビジネス投資育成(株)の出資制度を活用でき、規模拡大の資金に使えます。法人は財務諸表を作成することが義務化されますが、経理事務に関しては、全酪連はDMSを展開し、酪農専用のZIRABOという会計ソフトで簡単に酪農経営の経理や決算ができるサービスを提供し

ています。

4番目に、事業継承の円滑化という面で、構成員や従業員の中から有能な後継者を確保しやすくなります。法人化は、経営者の意思表示です。将来、子息や従業員、第三者に継承したのであれば、経営継承の手段として法人化を選択すべきと考えます。

### 法人化の留意点

法人化の留意点ですが、棚卸資産や農機具等の動産は、時価で有償譲渡することが重要です。かりに無償や時価の1/2未満で法人に資産を譲渡した場合、時価で譲渡したものとして譲渡した個人にみなし譲渡所得課税がかかり、譲り受けた法人にも資産受贈益が認定されて課税されます。一方、不動産は、法人へ有償貸付をするのが原則です。設立直後の法人で無理して不動産を買い取ると法人の財務内容を悪化させることになりかねません。

また、国の補助対象財産を法人に引き継ぐ場合、財産処分承認申請書を地方農政局等に提出する必要があります。補助事業においては、経営の同一性、継続性が求められ

ますので、旧経営者が法人の役員にならないと補助金返還になる場合があります。

定款の作成も注意点があります。農地所有適格法人の要件を満たすように作ってください。株式会社の場合、取締役の過半の者は、農業関連事業に原則年間150日以上従事する株主でなければなりません。例えば、取締役が父親と息子の2人で息子が株式を100%持つ場合は、農地所有適格法人になりません。取締役の過半(2人)の者が株主でないからです。肉用子牛の売却利益に対する肉用牛免税も、農地所有適格法人でなければ受けられません。

### 共同経営は？

酪農経営では、複数の経営体が共同で新しい法人を作り、規模拡大をする形が見られます。このような共同経営では、意思決定が遅れがちになるのが難点です。構成員が平等の議決権を持つと、代表者が方針を唱えても賛同を得るのに時間がかかります。酪農経営は環境の変化に迅速に対応し、スピード感をもって経営することが大事です。そこで代表者の出資比率、つまり議決権

を少し高めに設定し、株主全員が平等の出資比率は避けるべきです。また、役員報酬や役員退職慰労金のルールを設立時に決めておくことも重要です。共同経営は、後継者がいない経営体が参画する場合、途中で抜けることが前提になります。そこで、脱退の時にお互い納得のいく分配ができるように準備をしておく必要があります。

### 税制面では

個人事業の所得税は累進課税ですが、法人税は所得が増えてもあまり税率が上がらない構造です。個人事業では農業所得から差し引くことができる青色申告特別控除は最大で65万円ですが、法人経営では役員報酬の金額に応じて給与所得控除額が増える構造です。

ただ、法人経営で役員報酬を取り過ぎて資金が不足して法人が役員からお金を借りた場合、個人から見ると法人への貸付金になり、額面で相続税の対象になります。一方、役員報酬を抑えて内部留保すると株式の価値が上がりますが、株式は純資産価額では評価しませんが、相続税の負担は軽くて済みます。

経営継承の際、個人事業の場合、資産と負債の差額の純資産が丸々相続税の対象になります。一方、法人経営で株式を100%持っている場合、基本的には法人の純資産が株式の価値になりますが、類似業種比準価額で株式を評価すると、当初の払込金額の4倍程度で収まります。内部留保が増えても類似業種比準方式との併用で、株式の相続税評価があまり上がらない仕組みになっています。今、経営が厳しい中で個人事業のまま相続が発生すると、後継者に相続税の負担が重くかかるケースもあります。相続税は、資産に対して課税されるものです。今は利益が少なくても、過去の蓄積が大きければ相続税の負担が重くなります。

法人の役員借入金が増え膨らんでいる場合、債務の株式化(DES)を行うと、経営者の財産が貸付金から株式に入れ替わります。等価で株式と貸付金を交換しますが、相続税評価が下がります。また、法人が債務超過の場合でも、法人への貸付金には相続税が課税されませんが、債権放棄すれば貸付金がなくなります。ただ、債権放棄する

と株式の評価が上がります。また、債権放棄すると債務免除益で法人税が課税されることがありますので青色欠損金の範囲内で債権放棄するのがいいと思います。

法人の役員退職慰労金は、勤続年数で年40万円の退職所得控除額が控除されます。勤続年数が20年を超えると控除額は年70万円になり、控除額を引いた残りの額の1/2が課税対象となるので、給与や資産譲渡に比べると税負担が安くなります。引退の際、発行会社に株式を買い取ってもらうと、みなし配当課税になり、累進税率で税金が重くなりますので、引退する人の株式は他の構成員や後継者が買い取れるように、役員退職慰労金

の支給で株式の価値を下げたり後継者が買取資金を積み立てたりするなど、事前に準備しておくことが大切です。

先述のアグリビジネス投資育成(株)からの出資を受けた場合、その株式は10年以上保有してもらえます。出資の際、相続税評価額よりも低い評価で出資を引き受け、そのままの評価で後継者に譲渡することが多く、親から株式を譲り受けるよりも安く株式を取得できることがあります。このため、アグリビジネス投資育成(株)の出資は、酪農経営で事業承継の円滑化の目的で活用されています。

また、経営体が赤字となった場合、個人事業は3年間に限り純損失

の繰越控除が受けられますが、法人の青色欠損金は10年間繰越ができません。今の厳しい時代に膨らんだ欠損金を、今後、経営が好転したときに、法人税の負担を減らすことができます。青色欠損金のメリットを使うために法人化をするのもありかと思います。

でもインボイスがもらえず、仕入税額控除ができずに酪農経営に税負担が出ます。また、農地の確保という面では、法人の飼料生産組織は農地の所有権などの権利の取得ができますが、任意組織で農地を借りることができます。法人であれば融資だけでなく出資で資金調達ができます。必然的に法人化が必要になってきます。

### 飼料生産の協業化

今、酪農も含めた農業就業者の高齢化が進んでいます。稲作経営に限って見ますと、50代以下が10%強。9割近くは60代以上の方で占めています。ちよつと乱暴ですが、この先稲作経営の担い手が減少していく中、酪農経営が農地を確保するチャンスと捉えることはできないでしょうか。今ある水田を活かし、飼料生産組織の協業化で地域農業の構造を変えていく取り組みをする時期と考えられます。

現行の飼料生産組織が任意組織で課税事業者でない場合、その飼料生産組織から飼料作物を購入し

酪農家が共同で播種から収穫まで行う飼料生産組織の法人を作り、稲作農家と共同で飼料作物と水稲の輪作体系に取り組めば、畑地化促進事業や水田活用の直接支払交付金等の補助金が飼料法人に入ることができます。この場合に飼料法人が農業経営基盤強化準備金という税制特例を使うと、法人税を負担せずに内部留保することができ、稲作農家で組織する集落営農法人には日本型直接支払と地域集積協力が入ってきます。

このように飼料法人による取組みで稲作農家ともお互いウインウインの関係が作れますので、酪農経営だけでなく、コントラクター組織の法人化も大きな課題と考えます。



# 全国酪農青年女性会議

# 酪農業に対する理解醸成活動

## 大阪で開催

令和6年1月21日(日) なんばCITY ガレリアコート (大阪市)



令和6年1月21日(日)午後、全国酪農青年女性会議(中村俊介委員長以下、「全国酪農女」)はなんばCITY ガレリアコート(大阪市)で酪農理解醸成活動を行いました。

酪農業に対する理解醸成活動は、一般消費者に対し、酪農が日本の国土保全、地域経済活性化に果たしている役割や、酪農を取り巻く情勢について、酪農家自らが消費者に説明することで、酪農への理解醸成を促進し、国産牛乳や乳製品消費定着化を図ることを目的に、国の補助事業である生乳生産者需要確保事業を活用して、2013年から継続して全国各地で行っている活動です。

全国酪農女では、全国各地での開催に先駆け毎年10月に活動を実施しています。今年度も令和5年10月1日(日)に新宿駅西口広場イベントスペースで開催いたしました(本誌令和5年11月号に掲載)。最近の酪農情勢を鑑みると、「今こそ力を入れて活動するべきではないか」との思いから、今年は、人口が多く一大消費地である大阪でも開催することとしました。

当日は天候の心配もありましたが、全国酪農女の役員・委員が全国各地から大阪に集まり、全酪連職員に加え、近畿生乳販売業協同組合連合会、(一社)中央酪農会議、(一社)Jミルクの協力をいただき、総勢35名以上が参加し、統一の牛柄の法被を着用し、道行く消費者の方々には



ンフレットを配布しながら酪農をとりまく現状を説明しました。

用意していたがセットは終了予定時間を待たずになくなるほど、たくさんの方が興味をしめし受け取ってくれました。

会場に設置した搾乳体験コーナーでは、子連れのご家族を中心に乳しぼりを体験。今回は模擬搾乳牛ですが、この体験をきっかけに牧場に足を運び、生の乳しぼりを体験してくれる子供たちが増えたら嬉しいと感じます。

牧草やビート、ヘイキューブ、配合飼料や、その原料となる庄ペントウモロコシや大豆かす、大麦、ふすまなど

を並べたブースでは皆さん興味をもち手に取っていただき、『これら主原料の穀類は国際紛争や円安の影響を受け、飼料代はここ数年で1.5倍となりまし

た。皆さんに牛乳を安定的にお届けするために、牛乳・乳製品を値上げさせていただきました。』と説明すると、消費者の皆さんは『それでは値上げも仕方ないですね』『牛乳好きです。これからも飲み続けます。』など、温かい声

で応援していただきました。また、酪農と牛乳の理解促進に繋がればと、『ヒミツのミルクイズ』も中央酪農会議のブースで行いました。知っているようで知らない、そうだった

たの？という意外なことまで。楽しみながら理解を深めて帰っていただけなことと思います。クイズの参加者には、今回の理解醸成のテーマである「ミルクと暮らす」のロゴ入りの保冷バッグや「MILK・JAPAN」のグッズを配布しました。配布した保冷バッグを使って、毎日牛乳を買ってくださることを願います。

（一社）Jミルクにご用意いただいた全国の給食牛乳パックの分布を地図化（ZENRIN）したパネルの前には、常にたくさんの方が足をとめて見入っていました。自分が飲んでいた牛乳はあったでしょうか？または全国にこんなたくさん種類の牛乳があることに驚かれた方もいらっしゃるかもしれません。

今回は、牛乳消費啓発活動の一助になればとハウス食品様のご協力を得て、牛乳と混ぜるだけプレーンラッシーと一緒に配布しました。今後も、消費者の方々の興味を惹きながら、酪農・牛乳に対する理解を深めて頂ける活動を継続していきたいと思えます。

「おはよう」から「おやすみ」まで1日に何度でも。給食のない「土日」でも毎日。国民の皆様がたくさん牛乳を飲んで貰いたいですね。

向牧場

徳島県藍住町

## 未来を見据えた酪農経営に向けて 向牧場の場合



### 地域の紹介

今回訪問させていただいた向牧場は徳島県酪農農業協同組合（川田久志組合長）に所属し、徳島県藍住町で営農しています。徳島県酪農農業協同組合の生乳出荷戸数は62戸（令和5年12月時点）で年間約24,000tの生乳出荷量（令和4年度）になっております。藍住町は江戸時代に藍染めが盛んであり、現在でも藍染めが特産品として知られていることもあり、全国の自治体で唯一「藍」という字が入る町となっています。近年では肥沃な土地を活かし、全国有数のニンジンの産地となっています。また徳島県の中心地である徳島市に近いという立地の良さ、町内全域が平地なこともあり、ベットタウンとして宅地化が進み、人口が増えている珍しい町でもあります。

### 牧場の概況

そのような藍住町では、生乳出荷戸数が2戸になってしまいました。今回は牧場主の向勇輔さん（37歳）にお話を伺いました。向牧場は家族で営農しており、勇輔さん、お父さんの将勝さん（60歳）、お母さんの日登美さん（60歳）の3人で作業しています。搾乳は3人で行い、エサやりは勇輔さん、糞尿の運搬は将勝さん、子牛の哺乳は日登美さんで作業分担しています。施設はホルスタイン種を対尻式のつなぎ牛舎で飼養されており、現在の飼養頭数は搾乳牛が51頭、乾乳牛が7頭、育成・哺乳牛が24頭（自家育成、一部は北海道預託利用）となっております。現在は分離給与（自動給餌機を導入）で給餌を行っており、粗飼料は輸入牧草を購入し、自給飼料は作っていませんが、



▲ 向 勇輔さん



藍住町の特産であるニンジンを生産する8ha栽培しています。

### 牧場継承後の取り組み

向牧場は勇輔さんが大学1年生のときに現在の牛舎に移動し、今年で19年目になります。当時、県普及員の指導を実践し、経営状態が上向きになっていた段階だったので、勇輔さんは高校生の頃から牧場を継ごうかなど漠然と考えており、北海道の酪農学園大学の短大に入学し、卒業とともに向牧場で働き始めました。

そして昨年1月から将勝さんから牧場を継承し、昨今の飼料高騰による不安もありつつ、ホルスタインの採卵、和牛採卵のために近隣農家から和牛も導入するなど、次々と新しい取り組みにもチャレンジされています。最近、ホルスタインの採卵から初めての牛が生まれたそうで、今後牧場に貢献してくれることが楽しみと仰っておられました。事業継承と共に、これま



▲ 牧場の様子

でお母さんが入力していたDMSも勇輔さんが入力するようになりました。経営状況がわかるという理由から毎月こまめにDMSに入力することを心がけており、牧場の飼養管理だけでなく経営面の勉強も欠かさず行っています。

### 今後の目標

向牧場は高乳量かつ長命連産を目指した飼養管理を行っているのが特徴です。低カル対策でカルシウムの給与量を増やす、肝臓をケアするための資材の使用など牛の健康を第一に考えることで、結果的に乳量を出しつつも牛に無理をさせない管理になっていると感じました。勇輔さんの今後の目標は経産牛1頭あたり12,000kgと長命連産と分娩間隔400日以下を達成することだそうです。

勇輔さんと話すなかで、「労働力」に対しての危機感が大きいと感じました。熊本に視察に行った際、哺乳



▲ 採卵した受精卵から生まれた子牛

ロボットを導入している牧場が多く、自分たちの牧場規模でも哺乳ロボットを入れられることを知るなど、刺激を受けたそうです。哺乳ロボットの導入、従業員の雇用などを将来的に考えていきたいそうです。

### 終わりに

この度はお忙しい中取材を引き受けてくださり、ありがとうございました。取材中も県職員や近隣農家への感謝の言葉を多く聞くことができ、周りの協力あつての経営だと考えられているところが、見習うべき点だと感じました。向牧場の益々の発展と検証をお祈りいたします。

(O・A)

酪農部  
発

## 全国農協乳業協会 「令和5年度経営者研修会・意見交換会」の 開催について

酪農部が事務受託をしている、全国農協乳業協会（会長：大久保克美 東毛酪農業協同組合 代表理事組合長）において、令和6年1月11日(休) KKR ホテル東京「丹頂の間」及びWEB配信にて、令和5年度経営者研修会・意見交換会を開催いたしました。

本研修会は、毎年行政からの情報提供と、直近の社会情勢に鑑みたテーマ等で構成しており、本年度は「物流2024年問題」について2題と、酪農乳業情勢について1題の計3題の講演を実施いたしました。

冒頭、大久保会長より、1月1日に発生した能登半島地震における被災者等へのお見舞の意が表され、後に、石川県のアイ・ミルク北陸(株)廣田社長より被災地域の状況や、自社の工場被害及びその後の稼働状況について情報提供がされました。

その後講演①として、農林水産省大臣官房新事業・食品産業部 食品流通課 企画調査班より講師を招聘し、「『物流2024年問題』に向けた政府の取組について」講演をいただきました。農産物・食品物流の現状から、地域等でのセンターを活用した配送の効率化等の事例紹介と、最後に直近議論が進んでいる「政策パッケージ」や「農林水産省物流対策本部」の協議内容等について報告がされました。

講演②は、全農物流(株)酪農営業部より講師を招聘

し、「2024年問題に係わる当社の取組について」と題し、物流会社としての2024年問題に係わる物流効率化やパレット、コンテナの統一、鉄道を用いたモーダルシフトの事例等が紹介されました。生乳分野においては、ローリーの積込作業と配送作業の分業化の施策等が紹介されました。

最後に講演③として、(一社)Jミルクより「2023年度の生乳及び牛乳乳製品の需給見通しと取り巻く環境について」と題し、2022年度から実施された生産抑制による、今後の乳牛頭数の減少の課題や、乳価改定の影響による消費減退が続いている状況、脱脂粉乳在庫の問題等に対してのJミルクの取組や対策状況について報告がされました。

参加者からは、直面する物流2024年問題による4月以降の物流費高騰の状況について質問があがり、また牛乳乳製品需給においては牛乳の消費状況について関心が寄せられました。

冒頭あったように、2024年は元日からの震災等、酪農乳業界においても厳しい状況からスタートを切りましたが、全国農協乳業協会としても会員企業の負託に応えるべく、2024年も事業運営を実施してまいります。(Y.A)

本研修会は、(一社)Jミルクの国産牛乳乳製品高付加価値化事業の助成を受けて開催しました。



講演風景 ◀▶▶





日本酪農  
政治連盟

# 酪政連活動報告

令和5年11月～12月

11/1

自由民主党総合農林政策調査会、農林部会、農政推進協議会合同会議において、柴田副委員長は令和6年度税制改正にかかる要請を行う。



▲ 柴田副委員長 税制改正要請

11/21

}

11/22

北海道酪農協会・熊本県酪農政治連盟が農水省牛乳乳製品との意見交換会、衆議院・参議院会館にて要請活動を実施。また、酪政連新潟県支部が衆議院・参議院会館にて要請活動を実施。

11/29

自由民主党酪政会総会（於：自由民主党本部）  
佐藤委員長は、依然として厳しい各地の酪農情勢を伝えるとともに、加工原料乳生産者補給金単価、数量の適切な設定、鳥獣被害対策の強化等についての要請を行った。



▲ 酪政会総会での佐藤委員長要請



▲ 自民党酪政会総会

三役会議、中央委員会  
終了後、各ブロックにて要請活動を行う。

自由民主党九州酪政会総会（於：自由民主党本部）

12/1

自由民主党総合農林政策調査会、農林部会、農政推進協議会合同会議において、佐藤委員長は令和6年度酪農政策・予算確保に係る要請を行う。

12/4

自由民主党畜産議員連盟総会において、佐藤委員長は令和6年度酪農政策・予算確保に関する要請を行う。

12/12

自由民主党総合農林政策調査会、農林部会、農政推進協議会合同会議において、令和6年度畜産物価格の決定報告がなされる。報告後、佐藤委員長より御礼の挨拶を述べる。

令和  
6年

# 各地域酪農青年女性会議酪農発表大会

開催のご案内

発表大会 / 開催日

開催場所

第49回北海道酪農青年女性会議酪農発表大会

4月3日(水)

〈ガーデンパレス札幌〉

〒060-0001 北海道札幌市中央区北1条西6丁目3-1  
TEL:011-261-5311

第51回東北酪農青年女性会議酪農発表大会

3月18日(月) ~ 19日(火)

〈花巻温泉 ホテル花巻〉

〒025-0304 岩手県花巻市湯本1-125  
TEL:0198-37-2111

第51回関東甲信越酪農青年女性会議酪農発表大会

3月18日(月) ~ 19日(火)

〈ホテル・ザ・ウエストヒルズ・水戸〉

〒310-0031 茨城県水戸市大工町1-2-1  
TEL:029-303-5126

第51回中部酪農青年女性酪農発表大会

中止

※1月1日の能登半島地震を受け中止。  
審査会を開催予定。

第53回西日本酪農青年女性会議酪農発表大会

4月11日(木) ~ 12日(金)

〈安芸グランドホテル〉

〒739-0412 広島県廿日市市宮島口西1-1-17  
TEL:0829-56-0111

第51回九州酪農青年女性酪農発表大会

4月17日(水) ~ 18日(木)

〈ホテルグランドパレス諫早〉

〒854-0061 長崎県諫早市宇都町3-35  
TEL:0957-24-3939

# 酪農青年女性会議 LINE公式アカウント



## 友達募集中

友達追加方法

最新情報をお届けします。

1



ホーム画面へ

2



友だち追加ボタンを  
タップ

3



「QRコード」から  
読み取る

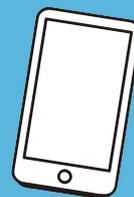
4



友だち追加で  
完了



@642bpcwk



QRコードで追加  
もしくは  
ID : @642bpcwk  
で検索!

# 令和6年能登半島地震の 災害に係る義援金の 受付について

本年1月1日に発生した能登半島地方を震源とする地震は、石川県能登半島を中心に大きな被害をもたらし、被災された方々におかれましては心からお見舞いを申し上げますとともに、お亡くなりになられた方々にはご冥福をお祈りいたします。

酪農関係でも、牛舎等の建物の倒壊や長期の大規模停電・断水が発生し、生乳廃棄、乳牛の斃死等深刻な事態となっています。

このような状況下、石川県酪農業協同組合におきまして、被災された酪農家への支援を目的とした災害義援金の口座を開設しましたので、ご案内いたします。

## 義援金口座

- 口座名義 石川県酪農業協同組合災害義援金(酪農)
- 金融機関 石川県信用農業協同組合連合会 本所
- 口座番号 普通預金 0035667
- 口座名カナ イシカワケンラクノウギョウキョウドウクミアイ  
サイガイギエンキン(ラクノウ)

※振込手数料はご負担いただきますようお願いいたします。

※金融機関で振り込んだ際の振込票等の控えを以て、受領証とさせていただきます。

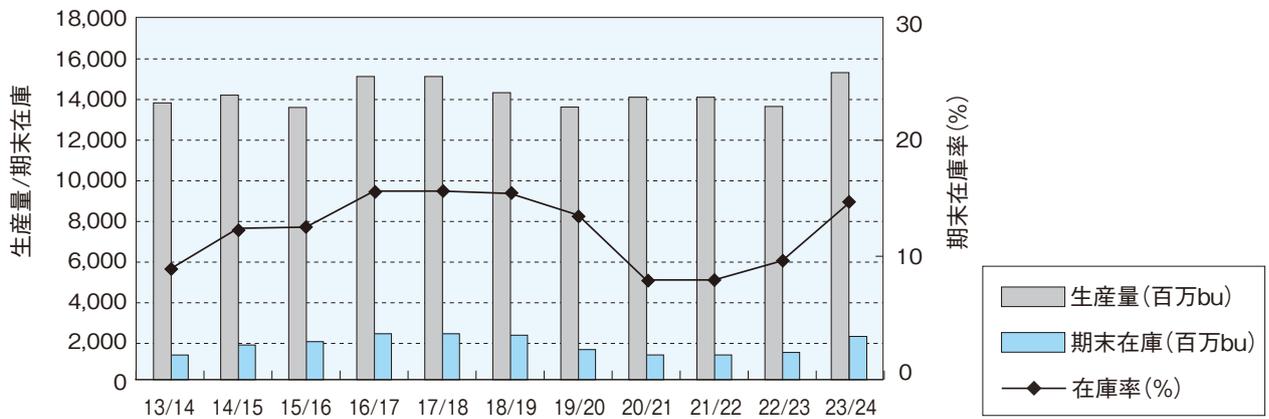
別途、受領証が必要な方は、下記連絡先にお問い合わせください。

石川県酪農業協同組合 076-276-8422

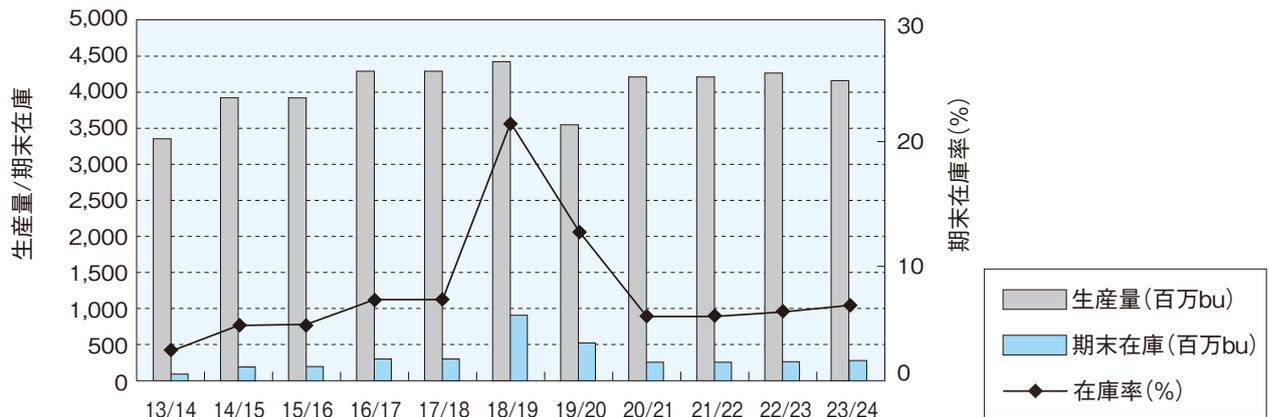


		22/23年産	23/24年産
1月12日発表 米国農務省 トウモロコシ 需給予想	作付面積(百万エーカー)	88.2	94.6
	単 収(ブッシェル/エーカー)	173.4	177.3
	生 産 量(ブッシェル)	136億5,100万	153億4,200万
	需 要 量(ブッシェル)	137億600万	145億6,500万
	期末在庫(ブッシェル)	13億6,000万	21億6,200万
	在 庫 率	9.92%	14.84%
	トウモロコシ 相場動向	米国産は豊作見通しにあることや、中国においては豚肉価格の低調により飼料需要が減退していること、ブラジル産においては降雨が見られ天候不順懸念が減退していること、アルゼンチン産が豊作期待にあること等から、シカゴ定期は上値重く推移している。	
大豆粕相場動向	輸入大豆粕については南米の天候改善からシカゴ相場は軟調に推移している。中国が来月に旧正月を迎えるため急な買付など相場の変動に注意したい。また2月以降、搾油メーカーは定期修理期間に入るため国産の発生がさらに減少する見通しとなっている。故に国産の相場は輸入価格に引っ張られながらも底堅く推移していく見込み。		
糟糠類	【一般フスマ】 外食需要が回復しているものの、主製品の売り行きが悪く発生は引き続き低調となっている。		
	【グルテンフィード】 主製品の売り行きが悪く国産の発生は低調なもの、中国産の価格が落ち着いたことによる輸入物の増加により国内在庫はやや余剰感が出ている。		
海上運賃	アジア向け米国産穀物輸出港の主力であるガルフ出しにおいて、引続き水位低下に伴うパナマ運河の滞船は解消されていないことや、悪化する中東情勢の影響に伴うスエズ運河航路の見合わせにより、パナマ運河経由より約1か月程度航海日数がかかる喜望峯経由の配船が散見される等、海上運賃は総じて堅調に推移している。		

### 米国産トウモロコシ生産量と期末在庫の推移



### 米国産大豆生産量と期末在庫の推移





# 輸入粗飼料の情勢

令和6年1月

北米コンテナ船情勢	<p>12月に入り北米西海岸航路は主要の乗継航路を含めて本船スケジュールの乱れはさらに悪化し、元々のスケジュールから2～3週間後ろ倒しになっている本船も散見されています。2月には中国の旧正月も控えており、旧正月が始まるまでには中国発着の貨物が増加し、旧正月中には中国に発着する貨物の流通量が一時的に低下しスケジュール調整のため本船を間引き運航する可能性もあり、海運情勢が安定するまでには時間がかかる見込みです。また、パナマ運河での降水量不足によりパナマ運河庁（ACP）は、通航する船舶の最大喫水制限や通航隻数の制限を夏時期に行っていましたが、11月から2月にかけて再度、通航隻数の制限を行うことを発表しました。それに伴い一部の船社はパナマ運河経由の航路をスエズ運河経由に変更する対応をしていましたが、12月に入りスエズ運河近くの紅海でイエメンの親イラン武装組織フーシ派による商業船への攻撃が相次いでいることを受け、各船社はスエズ運河の航行を見合わせる事態となり、該当航路の多くは南アフリカの喜望峰経由へと航路変更をしています。アジアから喜望峰経由での航海時間は、スエズ運河経由に比べ欧州行きで3～4週間、米国東海岸へは5日程度長くなるため、船が海上に滞留する時間が大幅に増え、世界全体として輸送効率が低下する見込みです。また、今後の紅海経由の航路には高額なサーチャージを掛けることを発表した船社や、喜望峰経由に適用されるサーチャージ、その他緊急時のチャージなど各船社チャージの名目は異なりますが、航路変更に伴い生じるチャージを発表した船社が相次いでいます。北米西海岸アジア着の一部の航路ではすでに紅海の治安問題の影響がでており、北米西海岸からアジア、スエズ運河、ヨーロッパ、スエズ運河、アジア、北米西海岸という順で運行している航路については、喜望峰回りにより欧州航路の航海日数が延びることで北米発アジア着の航海日数も同様に延びてしまうことから、急遽他航路から振替する動きも発生しており、スケジュールの乱れが発生しています。今後は世界的な輸送効率が低下することでコンテナの回転率も低下するなど、さらに北米貨物の輸送にも影響が出てくる恐れがあり引き続き注視が必要です。</p>
ビートパルプ	<p>【米国産】 産地では製糖作業とビートパルプの生産が続いています。例年では4月から5月にかけて収穫作業が終了しますが、作業が順調なことから少し前倒しで終える見込みです。現在、産地では気温が高い状況が続いている影響で冬季に保管された砂糖大根の品質劣化や廃棄が発生し生産量の減少が懸念されています。米国産ビートの需要については、23年産の上級品アルファルファの高値取引や大豆粕価格の上昇もあり、先月に引き続き堅調に推移しています。</p>
アルファルファ	<p>23年産の1番刈は主産地であるワシントン州やオレゴン州で収穫期に不安定な天候が続いたため、上級品の発生は限定的となりました。そのため、不足した上級品を補うために米国内酪農家や各輸出業者は刈取り番手が進むごとに買付を積極的に行っており現在の価格は高水準で推移しています。輸出向け需要としては、中国向けが徐々に回復しつつあり、日本向けよりも高値で取引されています。カリフォルニア州南部インペリアルバレーでは現在10番刈の収穫が行われています。産地では冬季期間のため夏場に発生するサマーヘイに比べ成分も回復していますが、米国内や輸出向けの需要は低く推移しています。</p>
チモシー	<p>【米国産】 主産地である、ワシントン州コロンビアベースン及び、エレンズバーグでは23年産の生産は終了しました。現在の需要は米国内の馬糧向けや酪農向け上級品に対する引き合いが強く、上級品の供給力は限定的となっています。24年産の作付面積については、23年産の価格下落により生産農家は換金性が高いとうもろこしや大豆といった他作物に転作することが予想されているため、作付面積は減少し相場の上昇が見込まれています。</p> <p>【カナダ産】 主産地であるアルバータ州中部クレモナ地区、南部レスブリッジ地区ともに23年産の収穫作業は終了しており、南部レスブリッジ地区の品質は中級品から上級品、中部クレモナ地区の品質は低級品から中級品が中心の発生となりました。産地では引き続き暖冬の影響で降雪も少ないため、24年産の生産に影響を及ぼす可能性も予想されています。</p>
スーダングラス	<p>産地では23年産の収穫は終了しました。スーダンの主な輸出先である日本向けの需要は22年産高値の影響で減退し、23年産の作付面積は減少しましたが輸出業者の旧穀在庫消化に目途がたったため徐々に日本からの引き合いも出てきている状況です。しかしながらスーダンの需要は以前に比べ減退していることから24年産の作付面積は更に減少する可能性があるため動向には注視が必要です。</p>
クレイングラス	<p><b>クレインは全酪連の登録商標です。</b></p> <p>産地では23年産のクレイングラスの収穫は終了しました。主産地であるカリフォルニア州南部インペリアルバレーでは、内需からの強い引き合いはないものの、日本や韓国向けで出荷は安定している状況です。産地では24年から開始が見込まれている畑を休ませることで政府から補助金がもらえる休耕地政策の影響でクレインの生産量は減少すると予想されています。インペリアル灌漑局から発表された12月15日付の作付面積は昨年同期比97%となる、21,542エーカーとなっています。</p>
バミューダ	<p>2023年のバミューダヘイは8月と9月の降雨により中級品に発生が中心となりました。現在、日本向けの需要は低調に推移していますが、米国内酪農家向けや台湾向けの需要は安定しています。</p>
ストロー類 (フェスキュー・ライグラス)	<p>主産地であるオレゴン州ウィラメットバレーでは、23年産の収穫は終了しています。23年は例年に比べ降雨が少なく土壌中の水分が不足した影響で生育が進まず生産量が大幅に減少しました。そのため、24年産が開始されるまでの供給は限定的となり輸出向け価格は高値で推移しています。産地では12月に複数回の降雨が発生し乾燥した土壌を潤しましたが、雨量が多い地域では休眠中のストローが根腐れする可能性もあり、来年の作付面積減少に繋がることが懸念されています。</p>
オーツヘイ	<p>【豪州産】 23年産オーツヘイの収穫作業は終了しています。作況については全豪全体で降雨が少なかった影響により大半が上級品の発生で、中～低級品の発生は限定的となっています。ウィートストローについては現在、収穫作業が本格化しています。西豪州では天候に恵まれたため見た目が綺麗な品質が発生し、南豪州と東豪州の一部では12月中～下旬の降雨の影響で色が変色した品質が発生しています。</p>
豪州ストライキ	<p>Maritime Union (港湾労働者組合) と DP World terminal (港湾施設) 間で賃金論争が原因となり断続的にストライキが発生していましたが、現在も続いています。ストライキの内容は荷役作業を一定期間停止するというもので、荷役作業の効率が低下しスケジュールの遅延が相次いでいる状況です。12月下旬に両社の賃金交渉は1月下旬まで行わないことを Maritime Union が発表したこともあり交渉再開までストライキが続く見込みのため、引き続きスケジュール遅延が懸念されています。</p>

今般の人事異動について、次のとおりお知らせします。

人事異動

新	旧	氏名
<p>■令和6年2月1日付異動発令</p>		
専務特命 酪農事業統括	酪農部長	佐藤 弘
購買生産指導部 分析センター長代理	購買生産指導部付外向 全国酪農飼料(株)鹿島工場	八木 小百合
札幌支所 総務課長 兼 指導組織課	名古屋支所 購買畜産課長	岩崎 正孝
札幌支所 畜産課長代理	東京支所 購買畜産課	菅谷 洋平
名古屋支所 購買畜産課長	大阪支所 近畿事務所長	下田 宏二
大阪支所 近畿事務所長代理	東京支所 購買畜産課	荻原 慎介
福岡支所 畜産課長代理	仙台支所 購買畜産課	北川 太
北福岡工場 次長 兼 総務課長 兼 品質管理課長	酪農部 乳製品工場課長	松本 悟
北福岡工場 製造課長	北福岡工場 品質管理課長	松寄 進
<p>■令和6年2月1日付昇進発令</p>		
総務部 人事室 課長代理	総務部 人事室	内本 和磨
酪農部 部長 兼 酪農企画課長 兼 生乳共販課長	酪農部 副部長 兼 酪農企画課長 兼 生乳共販課長	岩本 仁志
酪農部 副部長 兼 乳食品課長 兼 乳製品工場課長	酪農部 乳食品課長	町田 篤史
札幌支所 次長 兼 畜産課長	札幌支所 畜産課長	佐々木 俊介
<p>■令和6年2月1日付兼務発令</p>		
大阪支所 次長 兼 購買畜産課長 兼 近畿事務所長	大阪支所 次長 兼 購買畜産課長	下井 泰隆
福岡支所 支所長 兼 畜産課長	福岡支所 支所長	鈴木 有希津

価格状況 ▲……強含み ▲……やや強含み →……横這い ▼……やや弱含み ▼……弱含み

札幌支所 TEL 011-241-0765  
 釧路事務所 TEL 0154-52-1232  
 根室駐在員事務所 TEL 01537-6-1877  
 帯広事務所 TEL 0155-37-6051  
 道北事務所 TEL 01654-2-2368

事務所	畜種	相場(万円)	価格状況	管内状況
札幌管内	育成牛(10-12月令)	30~40	▲	札幌管内の1月中旬までの生乳生産量前年比は、函館管内月計で92.6%、累計で93.9%、苫小牧管内月計で94.0%、累計で92.4%の実績となっております。2月の初妊牛動向といたしまして、4月~5月中旬分娩中心となります。最も需要が高い春分娩が出回ることから、強含みで推移することが見込まれます。この時期の資源も少なく、この相場はしばらく続くと見込まれます。当地域は、高能力牛の資源が揃いやすいため、弊会各支所を通じて都府県の皆様へ紹介して参りますので、ご要望がございましたらご注文を宜しくお願いたします。
	初妊牛	60~70	▲	
	経産牛	45~55	▲	
釧路管内	育成牛(10-12月令)	30~40	▲	根釧管内の1月中旬までの生乳生産量前年比は、釧路管内月計で99.2%、累計で96.1%、中標津管内月計で102.6%、累計で96.9%の実績となっております。2月の初妊牛動向といたしまして、4月~5月中旬分娩中心となります。先月と同様に春分娩の需要が見込まれるため、相場は強含みに推移すると予想されます。道内での後継牛確保の動きに加え、昨年の猛暑により受胎率が下がっていることから、雌雄選別腹の出回り頭数が少ない状況が続いております。経産牛につきましても、乳価改定や春分娩需要により、やや強含みで推移すると見込まれます。
	初妊牛	60~70	▲	
	経産牛	50~55	▲	
帯広管内	育成牛(10-12月令)	35~45	▲	帯広管内の1月中旬までの生乳生産量前年比は、帯広管内月計で98.8%、累計で95.1%の実績となっております。2月の初妊牛動向といたしまして、4月~5月中旬分娩中心となります。年明けから相場が急騰したことから、春分娩の需要の高さが伺え、60万円以上の相場となって推移すると見込まれます。資源の少ない雌雄選別腹に加え、F1腹の需要も高まってきており、腹別による価格差は無くなってきています。受精卵移植腹は、引き続き資源は豊富にある状況です。また、即戦力の経産牛、春生まれの育成牛についても初妊牛相場に比例して堅調な相場となっております。他地域と比較し出回り頭数が多いため、資源を揃えやすく、大口導入にも対応出来ますのでご注文宜しくお願いたします。
	初妊牛	60~70	▲	
	経産牛	50~55	▲	
道北管内	育成牛(10-12月令)	30~40	▲	道北管内の1月中旬までの生乳生産量前年比は、稚内管内月計で96.5%、累計で95.2%、北見管内月計で99.9%、累計で95.5%の実績となっております。2月の初妊牛動向といたしまして、4月~5月中旬分娩中心となります。春分娩牛中心となるため需要集中し、相場は強含みに推移すると見込まれます。腹別では雌雄選別腹とF1腹での価格差はそれほどありませんが、出回り頭数は雌雄選別腹が道内自家保有する酪農家が多い傾向から、出回る資源が少なくなっている状況です。経産牛に関しましては、出回り頭数が減少していることから、強含みで推移すると考えられます。
	初妊牛	60~70	▲	
	経産牛	45~55	▲	
道内総括	育成牛(10-12月令)	30~40	▲	道内の1月中旬までの生乳生産量前年比は99.2%、累計で95.7%の実績となっております。道内は、長い冬の中でも最も寒い季節に入ってきました。2月の初妊牛動向といたしまして、先月の各地域の相場が急騰したこと、また人気の高い春分娩が本格的に出回ることなどから相場は強含みで推移する見込みです。資源についても、昨年の猛暑の影響を受けたことから、全国的に不足しており導入意欲が非常に高まっています。弊会庭先購買も前年と比較すると増加傾向であり、都府県における導入意欲が回復してきております。春分娩が出回り尽くすまで、この相場感は続くと見込まれますが、道内農協の協力の元、庭先購買を中心に要望に合った搾乳用素牛を購入していきたいと思っております。導入計画がございましたらお早めにご注文を頂きますよう、宜しくお願いたします。
	初妊牛	60~70	▲	
	経産牛	50~55	▲	

## 今月の表紙



今月の表紙は「第13回酪農いきいきフォトコンテスト」に応募いただいた作品「ぼくもウシちゃんになっちゃった!」(群馬県 関千鶴氏 撮影)です。

## 編集後記

- 令和6年能登半島地震により被害に遭われた皆さまへ、心からのお見舞いを申し上げます。そして、ご家族や大切な方々を亡くされた皆さまへ、謹んでお悔やみを申し上げます。被災地では、相次ぐ余震と寒さの中、不安が募る状況が続いておられますが、皆さまの安全と、1日も早い復興をお祈りするとともに、本会も引き続きできる限りの支援を行ってまいります。
- 会報に関するご意見・ご要望等があれば、以下のアドレスにメールをいただければ幸いです。  
 shidoukikaku@zenrakuren.or.jp

令和6年2月10日発行(毎月1回10日発行)

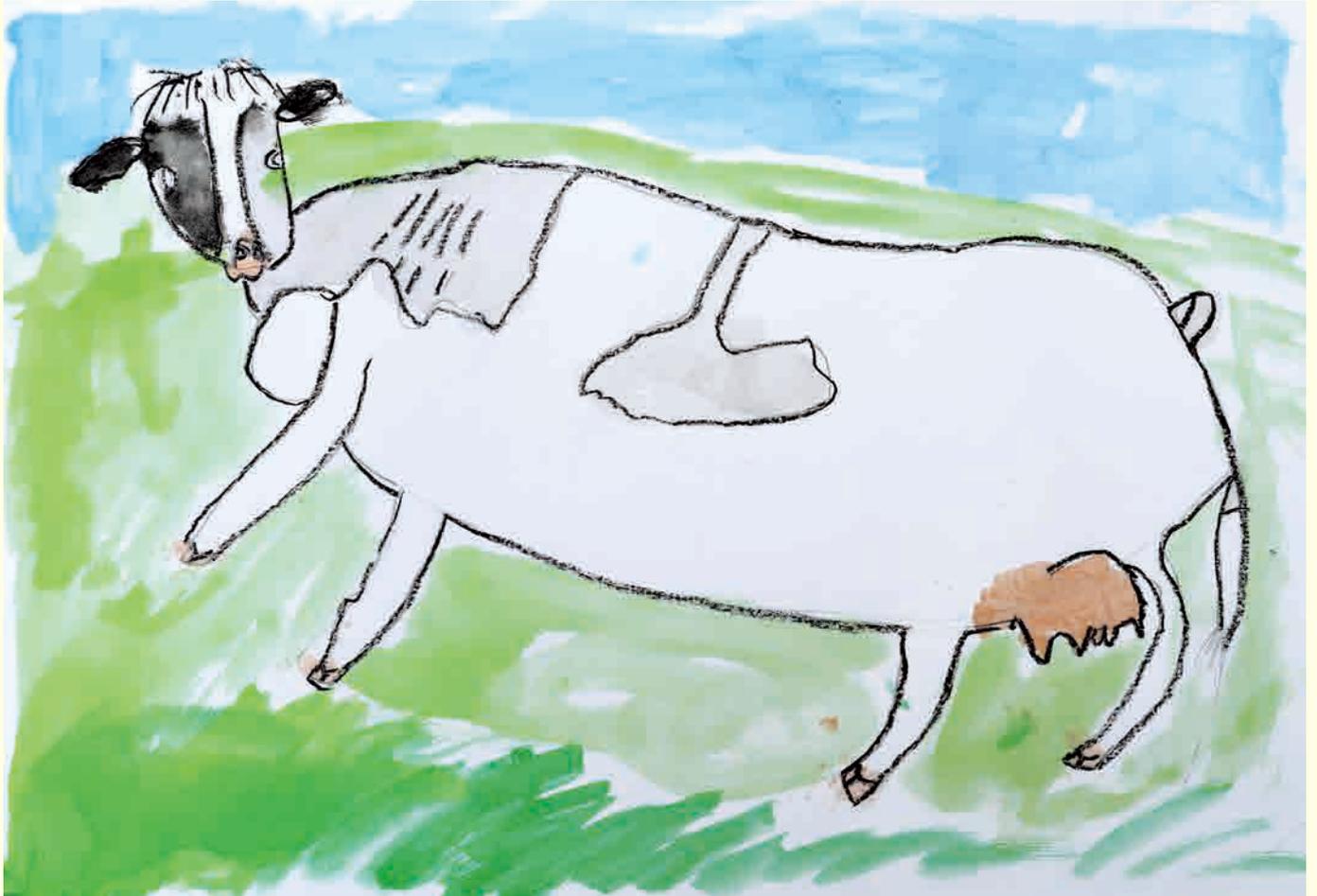
全酪連会報 2月号 No.701

● 編集・発行人 岡田征雄  
 ● 発行 全国酪農業協同組合連合会  
 〒151-0053 東京都渋谷区代々木一丁目37番2号 酪農会館  
 TEL 03-5931-8003 <https://www.zenrakuren.or.jp/>

今月の

らくのう

こどもギャラリー 入賞作品紹介



### 私の牛ポッポー

聖マリア幼稚園 5歳（関甲信） 興野瑞季

#### 今月の入賞作品は…

聖マリア幼稚園 5歳（関甲信）の興野瑞季さんの作品です。

牧草に寝転んでいたポッポーが、瑞季さんに気づいてこちらを見ているところでしょうか。お昼寝に誘っているようにも見えますね。瑞季さんとポッポーの仲の良さを感じさせる愛らしい一枚となりました。



※この作品は本会と全国酪農青年女性会議共催の「第49回らくのうこどもギャラリー」で全国138点の応募作品から入賞12点に選ばれたものです。

主催 全国酪農青年女性会議